

平成 25 年度 飯館村職員採用候補者試験

村では、次の内容で平成 25 年度飯館村職員採用候補者試験を行います。



●大学卒程度(一般事務)(若干名)

昭和 42 年 4 月 2 日から平成 3 年 4 月 1 日までに生まれた方

第 1 次試験

と き 平成 24 年 11 月 11 日 (日)
 受付 9:00 ~ 9:30 教養試験 10:00 ~ 12:00
 専門試験 13:00 ~ 15:00

ところ 飯館村役場飯野出張所
 福島市飯野町後川 10-2 (☎024-562-4200)

試験内容 教養試験…択一式による筆記試験
 結果発表 平成 24 年 11 月下旬に飯館村役場飯野出張所前掲示場に合格者受験番号を掲示するほか合否について通知します。

第 2 次試験

集団面接及び個別面接、小論文等。詳細は第 1 次試験合格者へ通知します(平成 24 年 11 月下旬開催)。

受付期間 平成 24 年 9 月 24 日(月) ~ 同年 10 月 12 日(金)
 (午前 8 時 30 分 ~ 午後 5 時まで)

※郵便提出の場合 10 月 10 日(水)まで
 (当日消印有効)

受験手続

○申込用紙交付及び提出先
 飯館村役場飯野出張所総務課

※郵送により申込用紙を請求する場合：
 封筒の表に「大学卒程度試験申込用紙請求」と朱書きし、80円切手を貼付した返信先明記の返信用封筒を同封してください。

※郵送により申込用紙を提出する場合：
 封筒の表に「大学卒程度試験申込」と朱書きし、80円切手を貼付した返信先明記の返信用封筒を同封してください。

お問い合わせ 飯館村役場飯野出張所総務課
 〒960-1301 福島県福島市飯野町後川 10 番地の 2 (☎024-562-4200)
 ホームページにも案内が掲載されています。 URL <http://www.vill.iitate.fukushima.jp/>

10 月 21 日は飯館村村長選挙の投票日です

任期満了に伴う飯館村村長選挙が 10 月に執行される予定です。
 飯館村のそしてあなたの未来を決める大切な選挙です。棄権せずに投票しましょう。

- 投票日 10 月 21 日(日)
 投票時間：午前 7 時 ~ 午後 6 時
 投票場所：飯野出張所・福島市吉井田学習センター
- 期日前投票 10 月 12 日(金) ~ 10 月 20 日(土)
 投票時間・場所：飯野出張所……午前 8 時 30 分 ~ 午後 8 時
 その他の投票所……午前 9 時 45 分 ~ 午後 4 時
 ※その他の投票所の場所については、村から送付した選挙案内をご覧ください。
- お問い合わせ 飯館村選挙管理委員会 (☎024-562-4200)

入札結果

入札日 / 平成 24 年 9 月 12 日(単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
平成 24 年度 小学校仮設校舎周辺整備工事	1,291,500	佐藤工業(株)	平成 24 年 10 月下旬
平成 24 年度 小型動力ポンプ付積載車購入	6,426,000	福島消防資材(株)	平成 25 年 1 月下旬
平成 24 年度 保育所給食検査機器購入	4,935,000	(株)東栄科学産業郡山営業所	平成 24 年 11 月下旬

中学生に放射線を 分かりやすく解説



▲仮設中学校多目的ホールで行った講演会のようす

飯館村 放射線教育講演会



「外部被ばくと内部被ばくでは内部被ばくの方が怖いと思う人？」中川先生の問いかけに手を挙げる生徒たち

村教育委員会が今年度から小・中学校の児童・生徒を対象に進める放射線教育の一環として、飯館中学校を会場に東京大学附属病院放射線科中川恵一准教授による飯館村放射線教育講演会が開催されました。これは、朝日新聞社と公益財団法人日本対がん協会主催で、学校に派遣された医師から直接学ぶ「ドクタービジット」として行われたものです。

講演会では、飯館中学校の生徒 113 人に対し、放射線についての分かりやすい説明や健康への影響、また日常生活での発がん性リスクの話があり、最後にがんについて学びやすいアニメの上映がありました。講演会後には、生徒代表の菅野大輝さんから「中学生にも分かりやすく、話を聞いて安心しました」とお礼の言葉がありました。講演を聞いた生徒からは「放射線のことはあまり知らなかったけれど話を聞いてよく分かった。がんのことは家族とも相談したり、日常生活に活かしたい」という声が聞かれました。

リスコミ

※リスコミ(リスクコミュニケーション)健康への影響についての情報を共有し専門家と意見交換していくこと

ドクタービジット
 学校に医師を派遣し、子どもたちへ授業を行うもの

こころの ぽけっと

「までい」は下山の思想

原発事故以来、毎日その対応に追われ、本を読む機会など激減してしまいました。そのよくな中でも久しぶりに目からウロコの本に出会い、我が意を得たりの思いであります。飯館村は「までいライフ」ということで、これまでの日本の経済を担ってきた大量生産・大量消費・大量破壊の考え方・生き方を少し変えていこうとしていました。

そのようなことと全く同じ考え方を書いた本に出会ったのです。五木寛之著『下山の思想』という本です。それは次のようなものでした。

日本は戦後、敗戦の焼け跡から、奇蹟の復興を成し遂げ、登山に例えれば、営々と頂上を目指し、見事に登頂を果たしたと言つてよいでしょう。しかし頂上を極めたということは、いずれ下山をしなければなりません。ところが私たちは、下がる・降りる・下るということをマイナス的に考え軽く見がちです。そうではないだろうか。つまり、下山をするということは、登ることに比べ価値がないことでは決してなく、むしろどこか心に余裕が生まれ、途中で遠くを見渡すと海や街が見え、足元の花にも気付くすばらしい道のりだ。

今、日本はそのような下山の状態にあるのではないだろうか。成長社会だけが全てではなく、成熟社会のありようを、原発事故から私たちは学んでいかねばならないであろうという内容の本でした。

新しい社会の考え方、経済活動とは別の物差しもさがしていく、あるいは大切だということでしょう。

これからの日本のありようと言える「までいライフ」を進めてきた飯館村ゆえ、もう一度、必ず蘇らせなければならぬと、改めて村の再生がいかに重要なことかと思ひ知らされたことでした。

平成 24 年 9 月 21 日

飯館村村長 菅野 典雄